

(電子メール施行)  
農技第1629号  
令和4年10月13日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和4年度病虫害発生予報第6号を發表します。

令和4年度病虫害発生予報 第6号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
トマト	アブラムシ類	やや少	少
	ハスモンヨトウ	平年並	やや少
	コナジラミ類	<b>やや多</b>	平年並
ハクサイ	黒斑病	やや少	少
	白斑病	やや少	少
	べと病	やや少	少
	軟腐病	やや少	少
	アブラムシ類	平年並	やや少
冬キャベツ	黒腐病	やや少	少
	菌核病	やや少	少
ブロッコリー	黒すす病	やや少	少
	べと病	やや少	少
	黒腐病	やや少	少
ネギ	さび病	やや少	少
	黒斑病	平年並	やや少
	べと病	やや少	少
冬レタス	菌核病	やや少	少
	灰色かび病	やや少	少
	腐敗病	やや少	少
	ビッグベイン病	やや少	少
野菜共通	ハスモンヨトウ	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
	シロイチモジヨトウ	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>

\* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(10月10日から11月7日までの天候見通し)

令和4年10月 6日

大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報 (10/08~11/07)		
2022年10月06日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 10/08~11/07	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるとでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
1週目 10/08~10/14	気温	1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
2週目 10/15~10/21	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 10/08~11/07	
		1週目 10/08~10/14	
		2週目 10/15~10/21	
		3~4週目 10/22~11/04	
降水量	近畿地方	向こう1か月 10/08~11/07	
日照時間	近畿地方	向こう1か月 10/08~11/07	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## \* 発生概況及び防除対策上の留意点

### トマト

#### 1 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少  
(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場（加西市）及び現地の調査では発生は確認されていない。  
イ 今後、野外からの侵入機会は少なくなるものの、1か月予報によると気温は平年並～高いと予想されており、施設内では発生がみられるようになると考えられる。

#### 2 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並  
(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の場内圃場（加西市）調査では幼虫の発生は確認されていないが、県内3カ所に設置しているフェロモントラップでは、平年並～やや多い成虫の誘殺が認められている。  
イ 今後、野外からの侵入機会は少なくなるものの、1か月予報によると気温は平年並～高いと予想されており、施設内は増殖に好適な環境であることから、平年並の発生になると考えられる。

#### 3 【コナジラミ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多  
(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場（加西市）調査では、タバココナジラミの発生が認められており、寄生複葉率は10.0%（平年値15.0%）、成虫数は複葉あたり2.0頭（同0.2頭）であった。現地調査では圃場によって程度の差はあるものの、平均で発生株率4.6%（前年値4.0%）、発生圃場率30.0%（同35.0%）と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、施設内では発生はやや多くなると考えられる。

ウ タバココナジラミによって媒介されるトマト黄化葉巻病は、一部地域で既に発生が認められている。本病の防除には、コナジラミ類に対して施設内への侵入防止と徹底した防除による蔓延防止が重要である。具体的な対策はトマト黄化葉巻病対策啓発リーフレット「生産者用防除資料」（県立農林水産技術総合センター病害虫部（兵庫県病害虫防除所）のHP内「病害虫に関する技術情報」に掲載（<https://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/technology>））を参照すること。

#### (3) 防除上の留意点

ア 施設開口部からの成虫の侵入を防止する。0.4mm以下の目合いの製品を用いると侵入防止効果が高い。

イ 薬剤散布にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるようにして散布ムラが生じないようにする。

ウ 防除薬剤は、病虫害・雑草防除指導指針等を参考にし、農薬使用基準を守る  
こと。

## ハクサイ

### 1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少  
(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市) 調査では発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生がみられるようになると考えられる。

### 2 【白斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少  
(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市) 調査では発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生がみられるようになると考えられる。

### 3 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少  
(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市) 調査では発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生がみられるようになると考えられる。

### 4 【軟腐病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少  
(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市) 調査では発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生がみられるようになると考えられる。

### 5 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並  
(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市) 調査では発生は確認されていないが、10月上旬の場内圃場(加西市)では発生を確認している。現在、ハクサイは生育初期～外葉形成期にあるが、結球期以降は内部がアブラムシ類の生息に好適な環境になる。  
イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、結球内で増殖が進むおそれがあるので注意する。

## 冬キャベツ

### 1 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市)及び現地の調査では発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

### 2 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市)及び現地の調査では発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

## ブロッコリー

### 1 【黒すす病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市)調査では発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

### 2 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市)調査では発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

### 3 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市)調査では発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

## ネギ

### 1 【さび病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場(加西市)及び10月上旬の場内圃場(朝来市)の調査では発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

### 2 【黒斑病】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場(加西市)調査では発病は確認されていないが、10月上旬の場内圃場(朝来市)調査では、例年より早い発生が確認されている(発病株率2.0%)。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生に助長的であることから、平年並の発生になると考えられる。

### 3 【べと病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場(加西市)及び10月上旬の場内圃場(朝来市)の調査では発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

## 冬レタス

### 1 【菌核病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市)調査では発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されている。本病の発生に助長的であることから、本病の発生がみられるようになると考えられる。

### 2 【灰色かび病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市)調査では発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されている。本病の発生に助長的であることから、

本病の発生がみられるようになると考えられる。

### 3 【腐敗病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市)調査では発病は確認されていない。
  - イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されている。本病の発生に助長的であることから、本病の発生がみられるようになると考えられる。

### 4 【ビッグベイン病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 9月下旬の場内圃場(南あわじ市)調査では発病は確認されていない。
  - イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、天候は周期的に変化して、降水量は平年より多いと予想されている。本年産春レタスでは、本病の発生は平年並であった。本病が土壌病害であること、本病を媒介する*Olpidium* 菌が圃場内に一定量存在することから、今後発生がみられるようになると考えられる。

## 野菜共通

### 1 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 9月以降フェロモントラップの誘殺数が増加しており、9月における合計誘殺数は、加西市(農技センター内)で608.0頭(平年値829.0頭)、朝来市(北部農技内)で715.7頭(同324.6頭)、南あわじ市(淡路農技内)で816.1頭(同414.7頭)とやや多い状態である。
  - イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件であることから、引き続き野菜類での被害の発生に注意が必要である。ダイズでも幼虫の発生(白変葉)が認められている。
- (3) 防除上の留意点
- ア キャベツ、ブロッコリー、レタスをはじめ、多くの野菜類を加害する。
  - イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。
  - ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢期の防除を徹底する。
  - エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)  
(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

## 2 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップでの誘殺数は、6月以降平年より多く推移しており、8月19日付で令和4年度病害虫発生予察注意報第3号（HPに掲載）を発出したところである。9月以降も誘殺数が多い状態が続いており、9月の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で291.0頭（平年値105.7頭）、朝来市（北部農技内）で107.0頭（同69.8頭）、南あわじ市（淡路農技内）で1214.6頭（同547.6頭）であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件であることから、引き続き野菜類での被害の発生に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 本種の加害植物は、ネギをはじめキャベツ、レタス等、多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

\* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>